

スクールワークワークショップ

GLAP1 第8回「ボランティアに最も大切なこと」

■ 実施概要

- 講師 NPO CFF (Caring for the Future Foundation Japan 石井文士、高梨恵子、中村勇風)
- 実施日 2014年11月22日
- 参加生徒: Eクラス、希望者
- 内容 CFFによるレクチャー

■ ボランティアに大切なことは？

1. フィリピンの家族についての架空の話から“ボランティアには何が必要か”を考察
2. 中村氏プレゼンテーション

生徒はまずフィクションの話を読み、“ボランティアに最も大切なものは何？”を考えるためブレインストーミングをする。架空のストーリーの内容:「日本人ボランティアが、ある男の子の家族の食生活を見て、野菜が不足していると感じ、野菜を育て食べるとよい、余った野菜は町に売りに行くと良い、と指導をした。男の子のお父さんは野菜を育てはじめるが、野菜を育て売る作業は以前よりもお父さんの仕事を増やすことになり、お父さんは始終仕事をしなくてはならず、人も変わってしまった。日本のボランティアがお父さんに仕事を提案したので、テレビなどの物が買えるようになったが、その反面男の子は大好きなお父さんと過ごす時間が激減してしまった。この家族はより幸せになったといえるのだろうか？」

■ ボランティアについて考察

架空の話を読んだ後、グループに分かれた生徒はブレインストーミングで自由に考えを出し合い、お互い

の意見や考えを議論し、最終的に自分の考えを固めていった。ワークショップ中で繰り返し生徒に問われていたことは、“ボランティアで最も大切なことは何か”だった。

■ CFFボランティア体験者のお話

スアル市のセワシウ村でCFFのワークボランティアに参加した中村さんはワークプログラムで石垣づくりをし、その経験を語った。“穴掘り、石を運ぶ、セメント固める等の肉体労働だった。とにかく暑く、30分働いたらへとへとで作業が進まない。最初の3日間は何の意味があるのかと、考えこんだ。しかし、自分たちの歓迎会に知らない村中の人まで集まり歓迎してくれ、自分が受け入れられていると気付いた。以後この人たちのためにできることをしたい、と思った。想いがあたらぜひ行動してほしい”とクラスに伝えた。

【生徒から出ていたコメントの一部】

共通の感想は“思い込みや自分の価値観で押し付けにならない、人を見たボランティアをすべき”。そのほか一強制的なボランティアは、現地の人の思いを無視している、お父さん一緒に狩りなどいくべきだった、お父さんの気持ちがまったく出ていない、本当に幸せになったとは思えない、等があった。

他の人の斬新な意見を聞いた。今回得られた沢山の気づきを将来に役立てたい。

